

保育サービス利用者アンケート調査

1 調査の目的

この調査は、「世田谷区子ども計画（第2期）」の策定にあたり、区内保育サービス利用者のニーズ、サービス利用状況、雇用状況等を把握し、今後の保育施設の整備や保育サービスの充実に向けた検討に資することを目的とする。

2 調査対象

世田谷区在住の保育サービス利用者 3,130 人

3 抽出方法

区立認可保育所、私立認可保育所、認定こども園、認証保育所、保育室、その他の認可外保育施設は、施設別無作為抽出、保育ママ、家庭的保育事業は利用者全員

4 調査方法

施設から対象者へ直接手渡し - 郵送回収

5 調査時期

平成 25 年 11 月 14 日 ~ 12 月 2 日

6 回収数・回収率

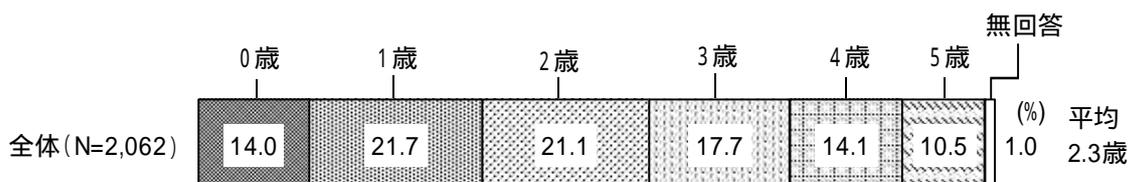
施設名	発送・配布数	有効回収数	有効回収率 (%)
区立認可保育所	1,157	854	73.8
私立認可保育所	1,118	712	63.7
認定こども園	46	16	34.8
認証保育所	413	273	66.1
保育室	102	61	59.8
保育ママ	87	49	56.3
家庭的保育事業	77	47	61.0
その他認可外保育施設	130	35	26.9
その他・不明		15	
合計	3,130	2,062	65.9

1 子どもと保育施設について

(1) 子どもの年齢 (問1)

子どもの年齢は「1歳(21.7%)」、「2歳(21.1%)」、「3歳(17.7%)」などが多く、平均年齢は2.3歳となっている(図表1-1)。

図表1-1 お子さんの年齢(全体)

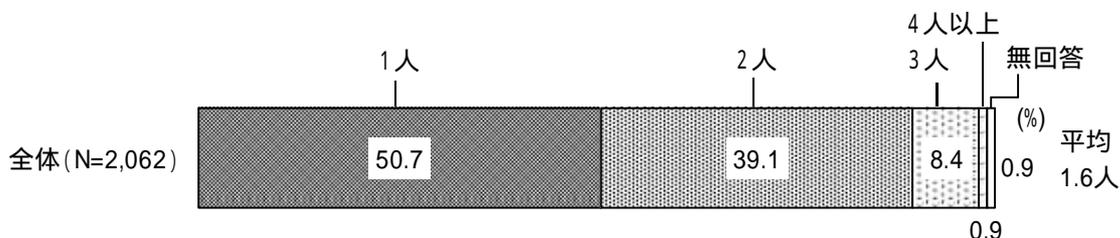


(2) 子どもの人数・末子の年齢 (問2)

子どもの人数

子どもの人数は、「1人(50.7%)」、「2人(39.1%)」、「3人(8.4%)」の順となっている。平均人数は1.6人である。(図表1-2-1)。

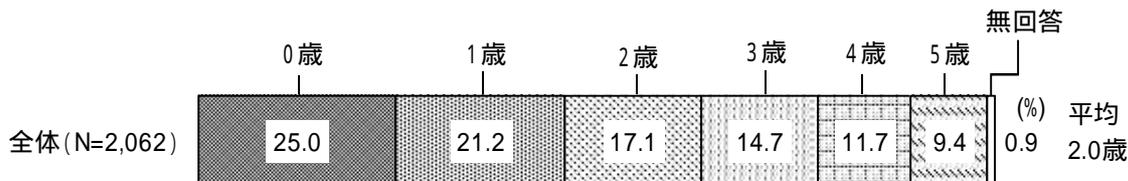
図表1-2-1 子どもの人数(全体)



末子の年齢

末子の年齢は、「0歳(25.0%)」が最も多く、「1歳(21.2%)」、「2歳(17.1%)」、「3歳(14.7%)」が続いている。平均年齢は2.0歳である(図表1-2-2)。

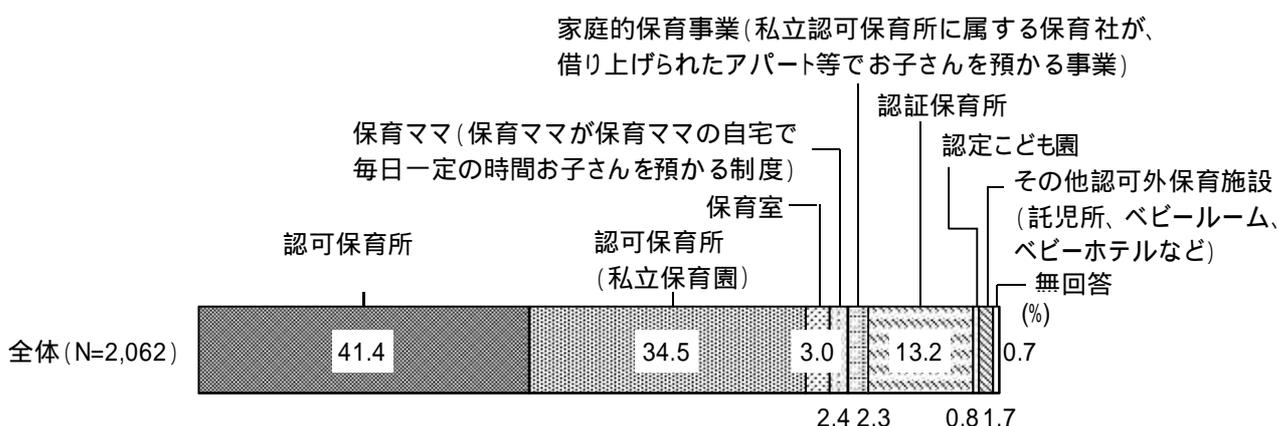
図表1-2-2 末子の年齢(全体)



(3) 主に預けている保育施設 (問3)

主に預けている保育施設は、「認可保育所(区立保育園)(41.4%)」、「認可保育所(私立保育園)(34.5%)」が多く、これに「認証保育所(13.2%)」が続いている。(図表1-3)。

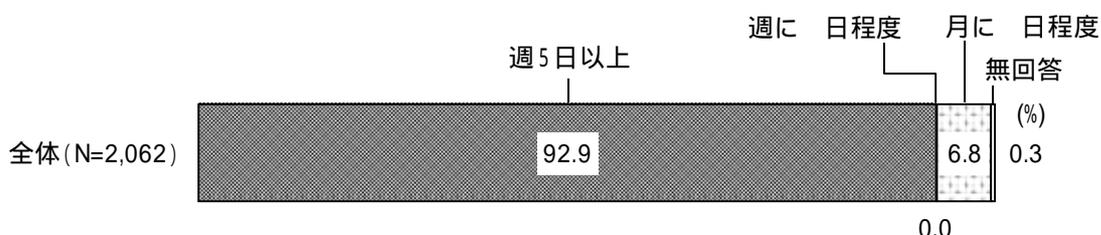
図表1-3 主に預けている保育施設(全体)



(4) 預けている頻度・日数 (問4)

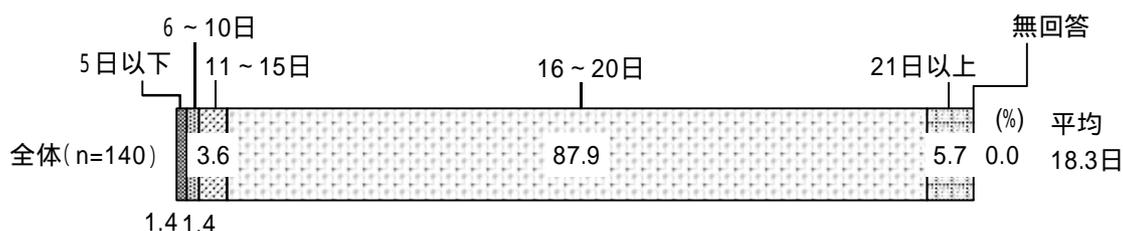
主に預けている保育施設に預けている頻度は、「週5日以上(92.9%)」が大半を占める。(図表1-4-1)。

図表1-4-1 預けている頻度(全体)



月に 日程度と回答した140名が、月に預けている日数は「16~20日(87.9%)」が多い。平均は18.3日であった。(図表1-4-2)。

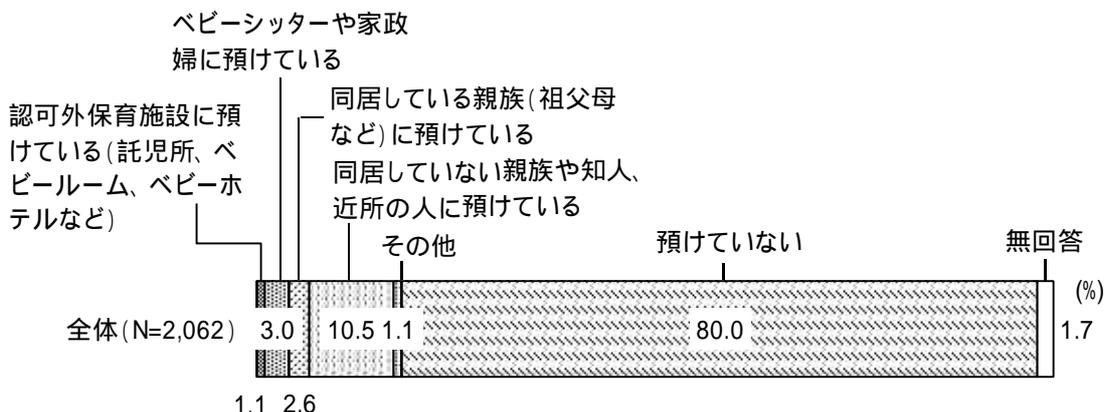
図表1-4-2 月に預けている日数(全体) <月に 日程度と回答した人>



(5) 他の保育施設等に預けている状況 (問 5)

他の保育施設等に預けている状況をたずねたところ「預けていない」が 80.0%と大半を占めた。預けているケースで多かったのは「同居していない親族や知人、近所の人に預けている (10.5%) 」である。(図表 1 - 5)。

図表 1 - 5 他の保育施設等に預けている状況 (全体)

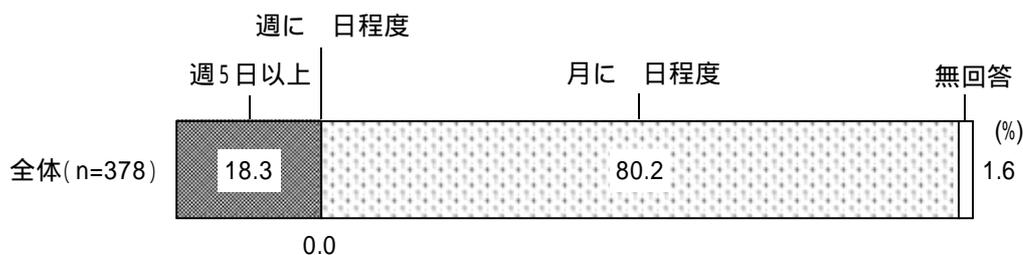


(6) 他の保育施設に預けている頻度・日数 (問 5 - 1)

預けている頻度

他の保育施設に預けている頻度は、月に 日程度とする回答 (80.2%) が多かった (図表 1 - 6 - 1)。

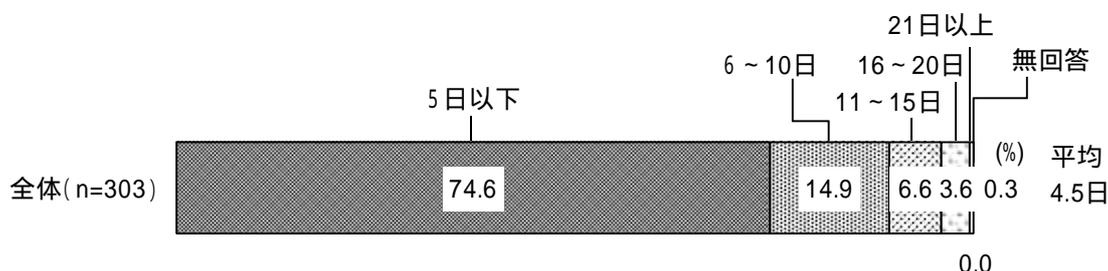
図表 1 - 6 - 1 預けている頻度 (全体) < 他の保育施設に預けていると回答した人 >



月に預けている日数

「月に 日程度」とした回答の内訳は下記のとおりであり、「5日以下」が 74.6%と最も多かった (図表 1 - 6 - 2)。

図表 1 - 6 - 2 月に預けている日数 (全体) < 月に 日程度と回答した人 >

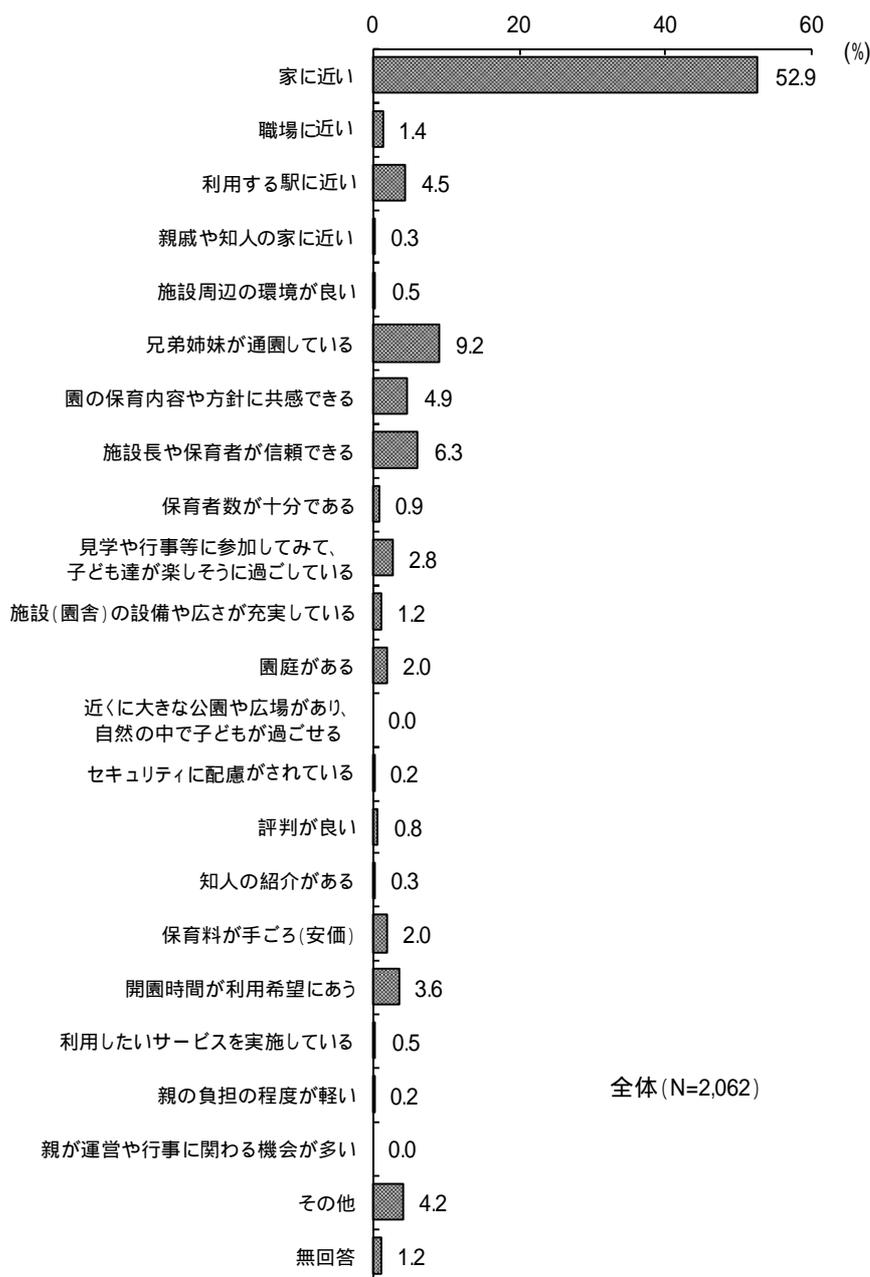


(7) 施設を選ぶ際に重視したこと(問6)

施設を選ぶ際に重視したこと/最も重視すること

施設を選ぶ際に重視したこと/最も重視することは、「家に近い(52.9%)」であり、これに「兄弟姉妹が通園している(9.2%)」、「施設長や保育者が信頼できる(6.3%)」が続いている(図表1-7-1)。

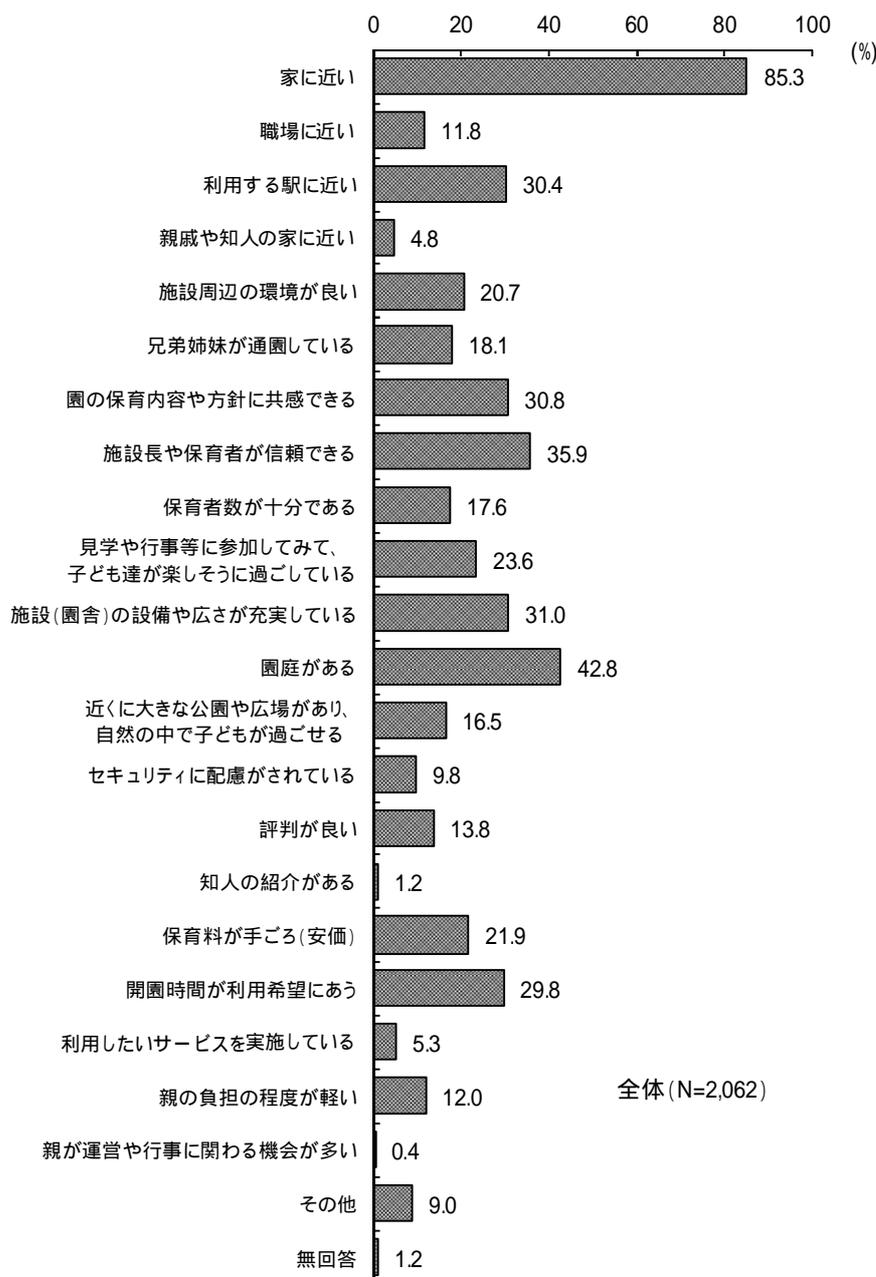
図表1-7-1 施設を選ぶ際に重視したこと/最も重視すること(全体)



施設を選ぶ際に重視したこと

施設を選ぶ際に重視したことについて、1番目から5番目までを合計して複数回答として集計すると、「家に近い(85.3%)」、「園庭がある(42.8%)」、「施設長や保育者が信頼できる(36.9%)」、「園の保育内容や方針に共感できる(30.8%)」、「利用する駅に近い(30.4%)」などが多かった(図表1-7-2)。

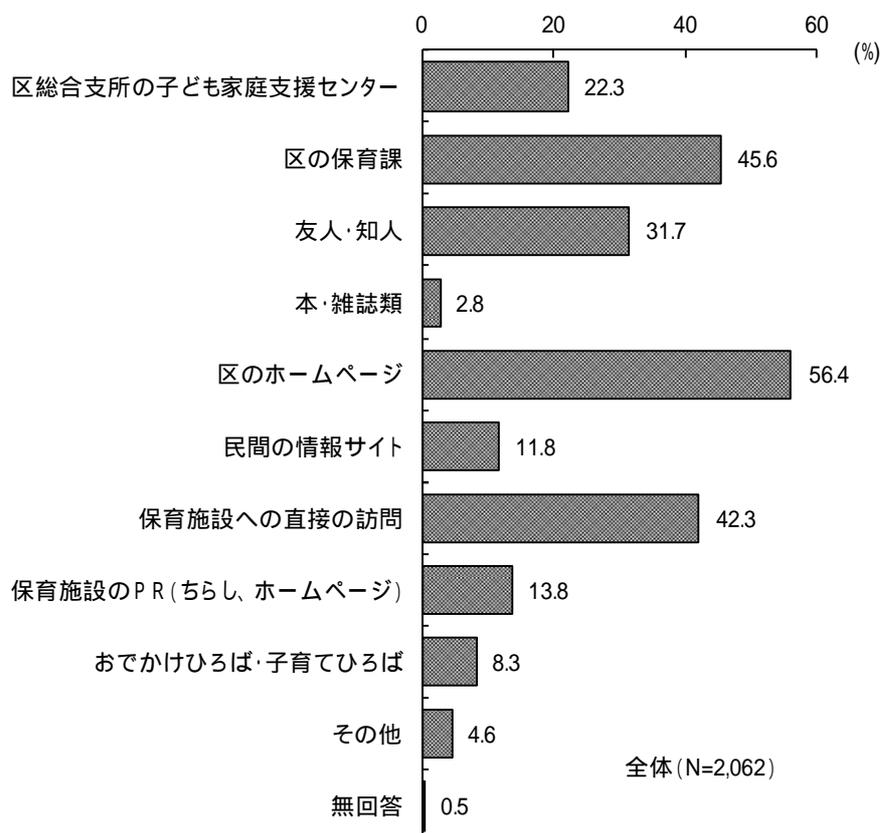
図表1-7-2 施設を選ぶ際に重視したこと(全体:複数回答)



(8) 保育施設の情報入手経路 (問 7)

保育施設の情報入手経路は、「区のホームページ (56.4%) 」が最も多く、これに「区の保育課 (45.6%) 」、「保育施設への直接の訪問 (42.3%) 」、「友人・知人 (31.7%) 」が続いている (図表 1 - 8) 。

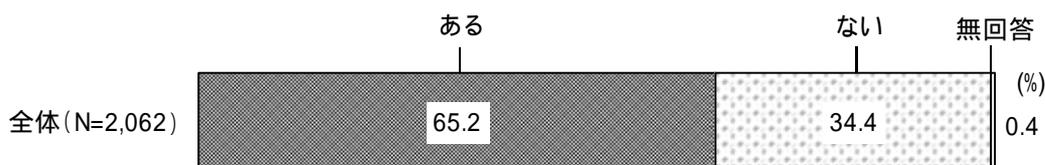
図表 1 - 8 保育施設の情報入手経路 (全体 : 複数回答)



(9) 施設の見学の有無・行事の参加有無 (問 8)

施設の見学の有無・行事の参加有無は、「ある (65.2%) 」が「ない (34.4%) 」を大きく上回っている (図表 1 - 9 - 1) 。

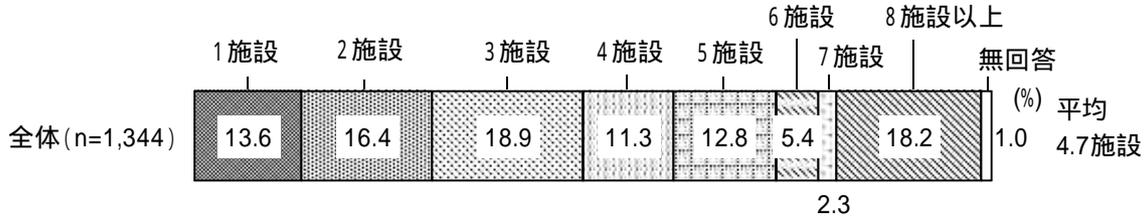
図表 1 - 9 - 1 施設の見学の有無・行事の参加有無 (全体)



訪問した施設数（問 8）

訪問した施設数は、「3施設（18.9%）」が最も多かったが、「8施設以上（18.2%）」という回答もあり、平均で4.7施設となっている（図表1-9-2）。

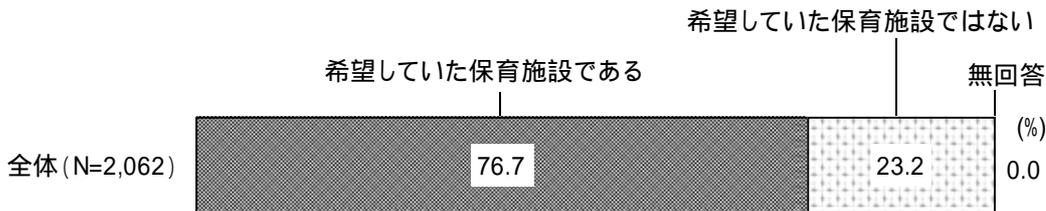
図表1-9-2 訪問した施設数（全体）＜現在通っている保育施設に入るまでに施設を見学した人＞



(10) 希望した保育施設か（問 9）

現在通っている施設が、希望した保育施設かどうかたずねたところ「希望していた保育施設である（76.7%）」が多かったが、「希望していた保育施設ではない」という回答も23.2%あった（図表1-10）。

図表1-10 希望した保育施設か（全体）

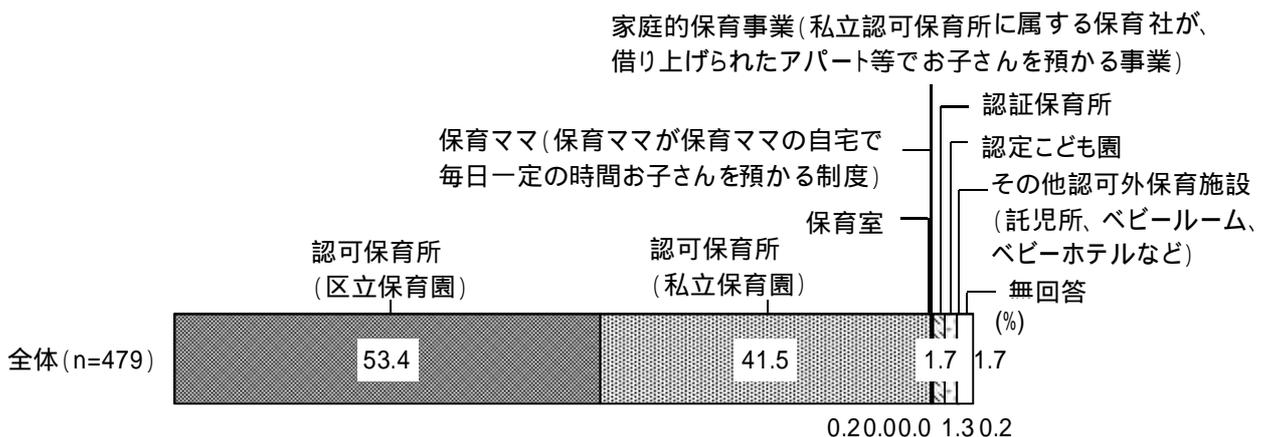


(11) 希望していた保育施設（問 9 - 1）

現在通っている施設が「希望していた保育施設ではない」人が、希望していた保育施設は、「認可保育所（区立保育園）（53.4%）」、「認可保育所（私立保育園）（41.5%）」が多かった（図表1-11）。

図表1-11 希望していた保育施設（全体）

＜希望していた保育施設ではない人＞



(12) 入園を待機した期間の有無 (問 10)

入園を待機した期間が「ある」とする人は 39.0%であった (図表 1 - 12)。

図表 1 - 12 入園を待機した期間の有無 (全体)

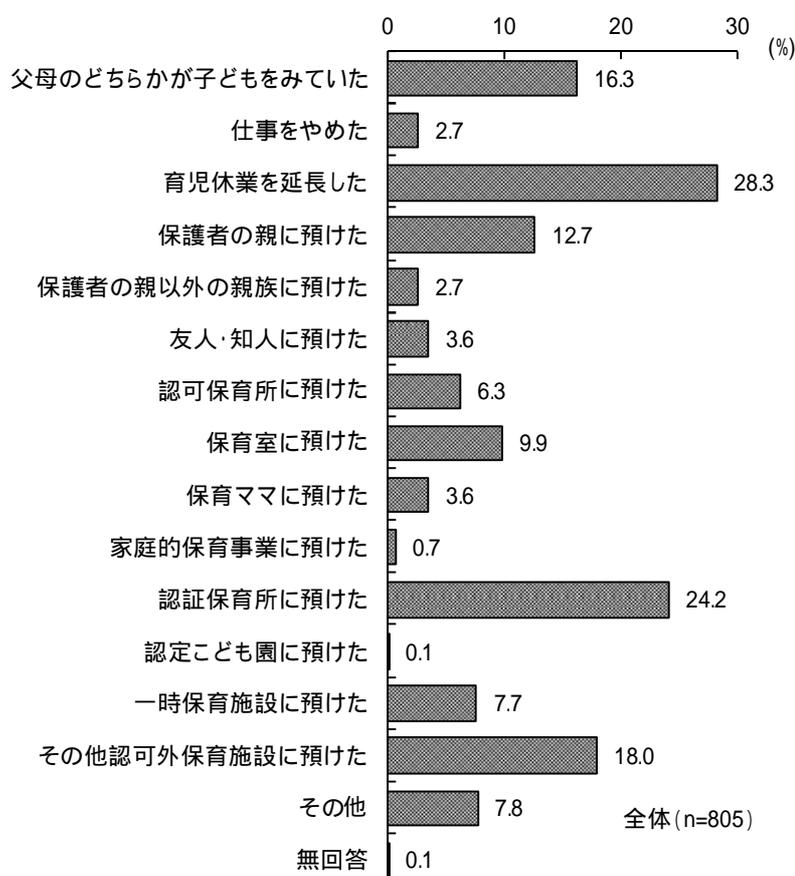


(13) 入園できなかった期間の対応 (問 10 - 1)

入園できなかった期間の対応として多かったのは、「育児休業を延長した (28.3%)」、「認証保育園に預けた (24.2%)」、「その他認可外保育施設に預けた (18.0%)」などである (図表 1 - 13)。

図表 1 - 13 入園できなかった期間の対応 (全体：複数回答)

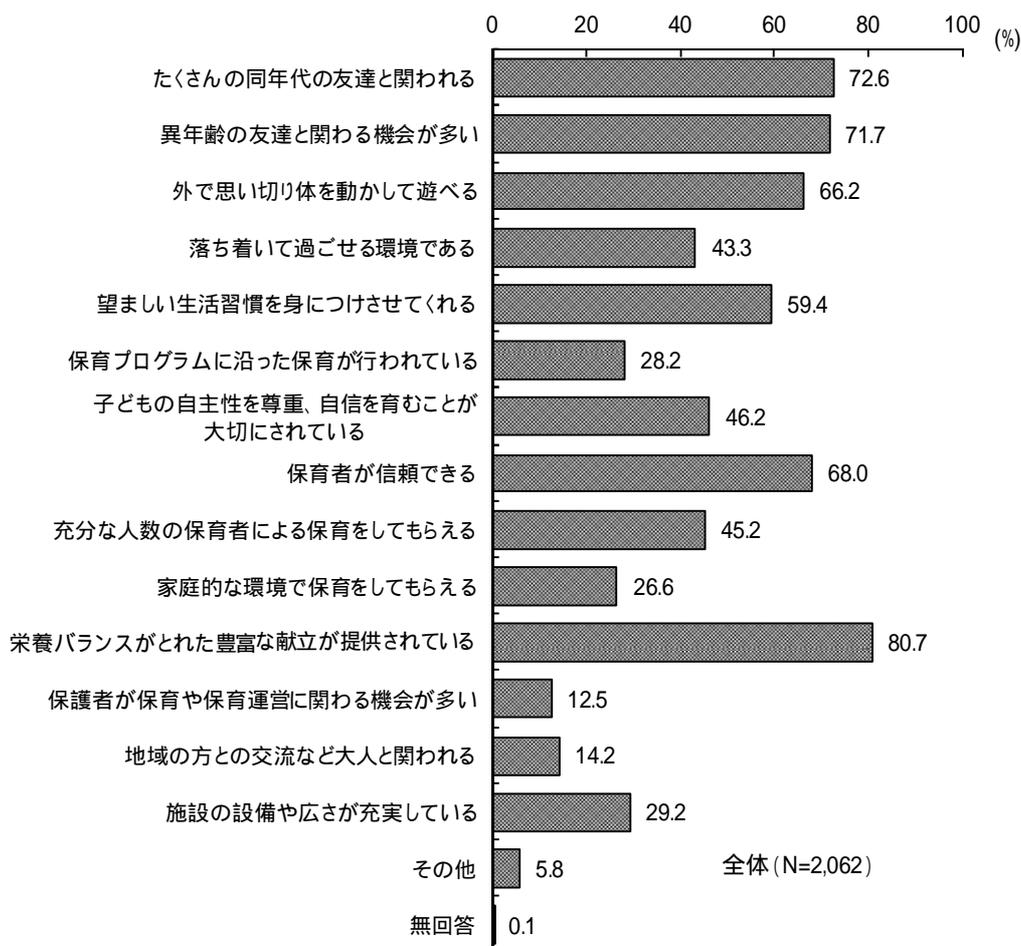
<入園できず待機した期間がある人>



(14) 現在の保育施設に通っていて良いと感じること(問11)

現在の保育施設に通っていて良いと感じることは、「栄養バランスがとれた豊富な献立が提供されている(80.7%)」、「たくさんの同年代の友達と関われる(72.6%)」、「異年齢の友達と関わる機会が多い(71.7%)」などが多かった(図表1-14)。

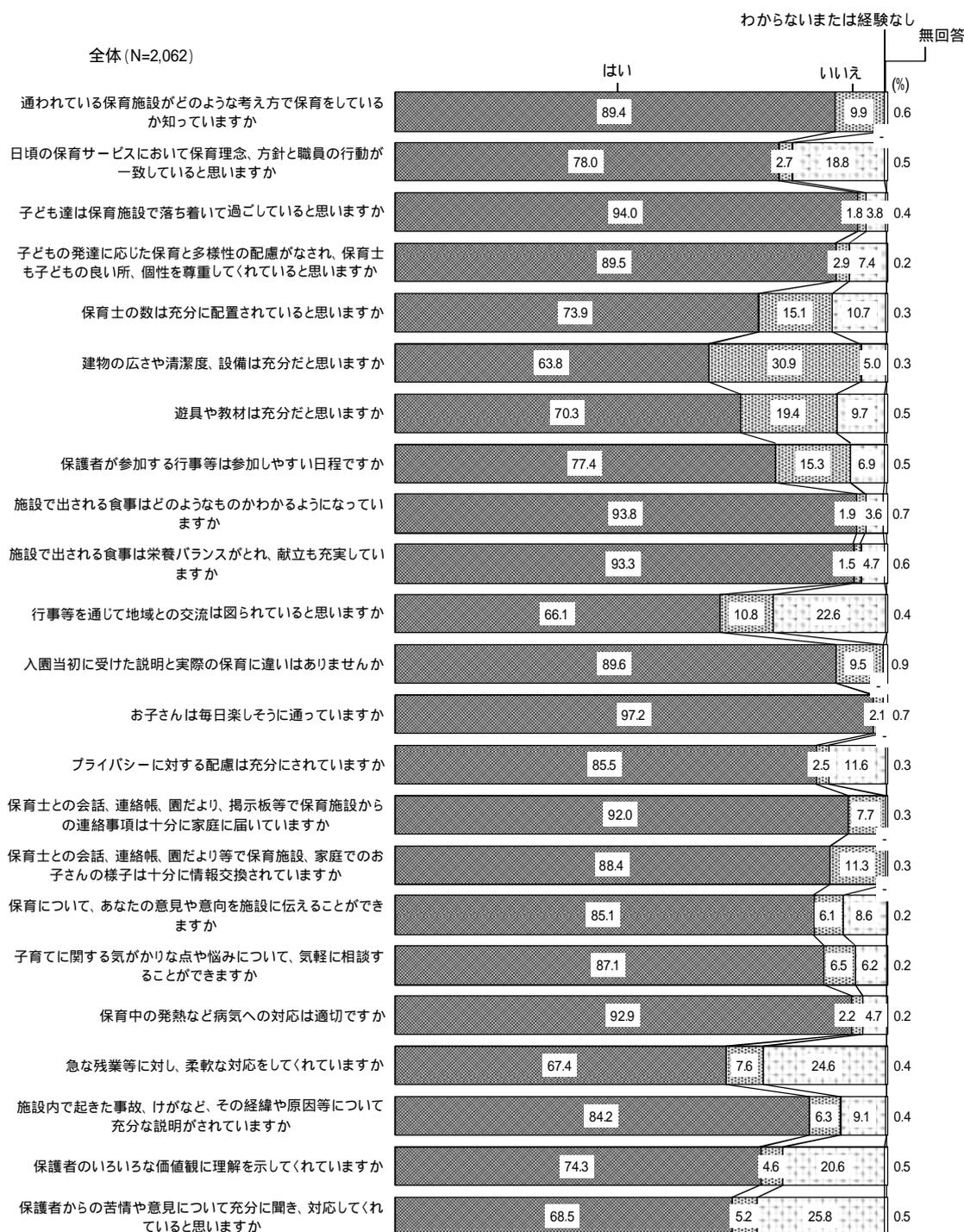
図表1-14 現在の保育施設に通っていて良いと感じること(全体:複数回答)



(15) 保育施設について日ごろ感じていること(問12)

保育施設について日ごろ肯定的に感じていることは、「お子さんは毎日楽しそうに通っていますか(97.2%)」、「子ども達は保育施設で落ち着いて過ごしていると思いますか(94.0%)」、「施設で出される食事はどのようなものかわかるようになっていきますか(93.8%)」などであり、逆に相対的に否定の割合が高かったのは「建物の広さや清潔度、設備は充分だと思えますか(30.9%)」、「遊具や教材は充分だと思えますか(19.4%)」、「保護者が参加する行事等は参加しやすい日程ですか(15.3%)」などである(図表1-15)。

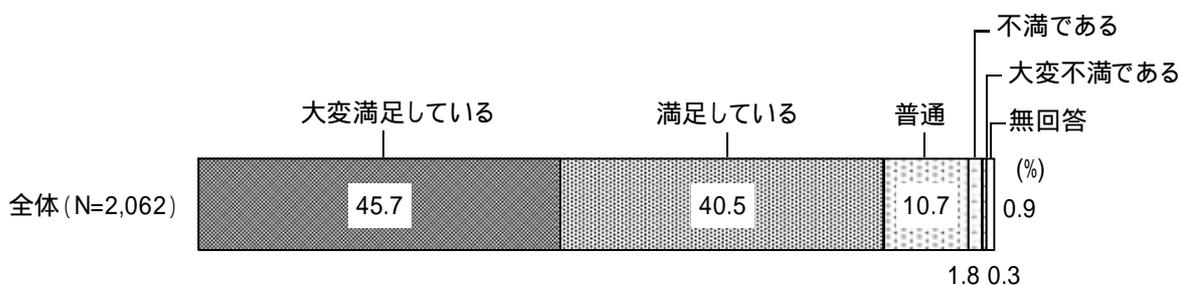
図表1-15 保育施設について日ごろ感じていること(全体)



(16) 保育施設の満足度 (問 13)

入園している保育施設に満足しているかについてたずねたところ「大変満足している (45.7%)」、「満足している (40.5%)」合わせて 86.2%が満足している。(図表 1 - 16)。

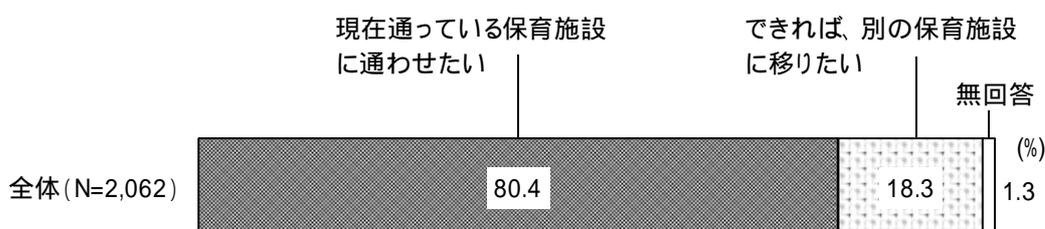
図表 1 - 16 入園している保育施設の満足度 (全体)



(17) 保育施設に今後も通わせたいか (問 14)

現在通っている保育施設に保育施設に今後も通わせたいかをたずねたところ、80.4%が「現在通っている保育施設に通わせたい」と回答したが、「できれば、別の保育施設に移りたい」とする回答も 18.3%あった (図表 1 - 17)。

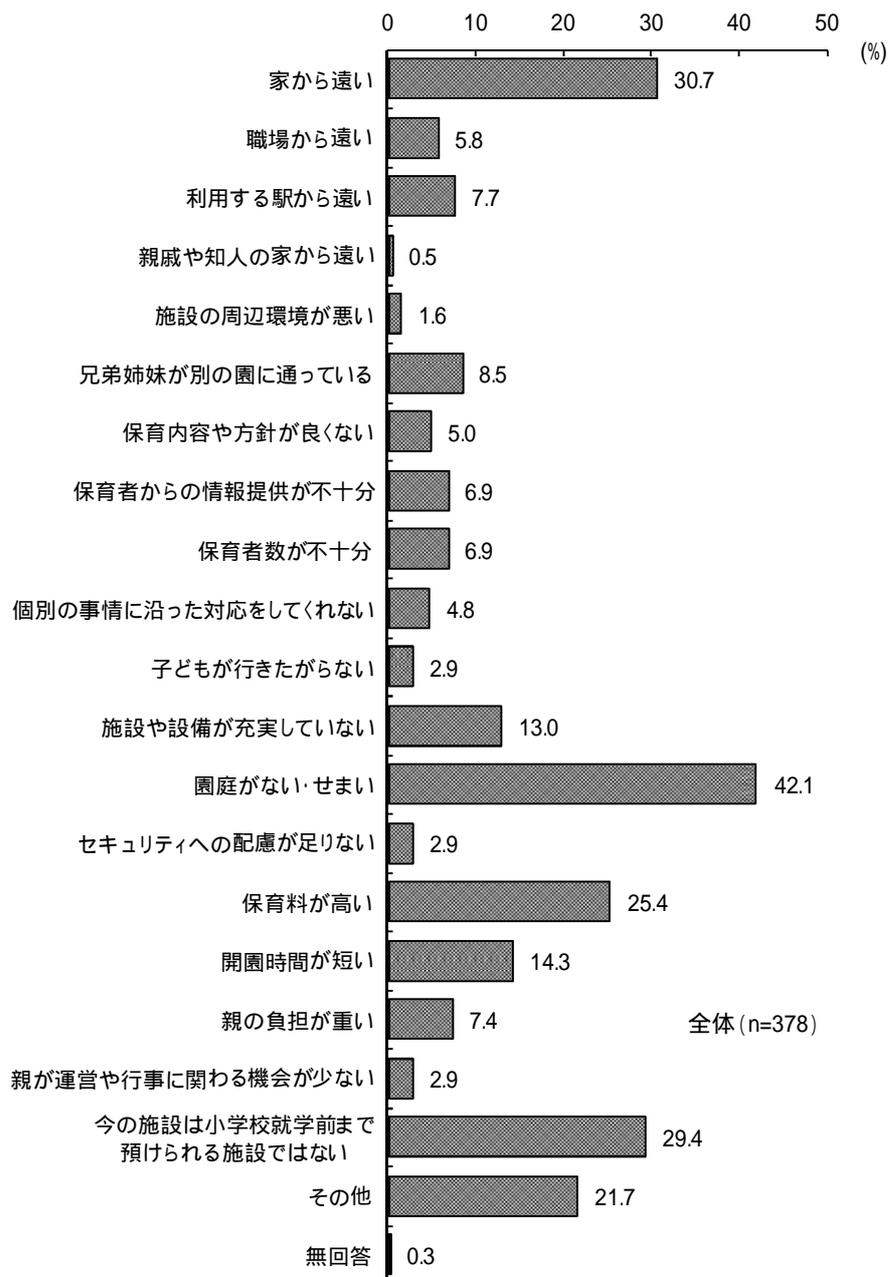
図表 1 - 17 保育施設に今後も通わせたいか (全体)



(18) 別の施設に移りたい理由 (問 14 - 1)

別の施設に移りたい理由としては、「園庭がない・せまい (42.1%)」、「家から遠い (30.7%)」、「今の施設は小学校就学前まで預けられる施設ではない (29.4%)」などが多かった (図表 1 - 18)。

図表 1 18 別の施設に移りたい理由 (全体：複数回答) <できれば、別の保育施設に移りたい人>

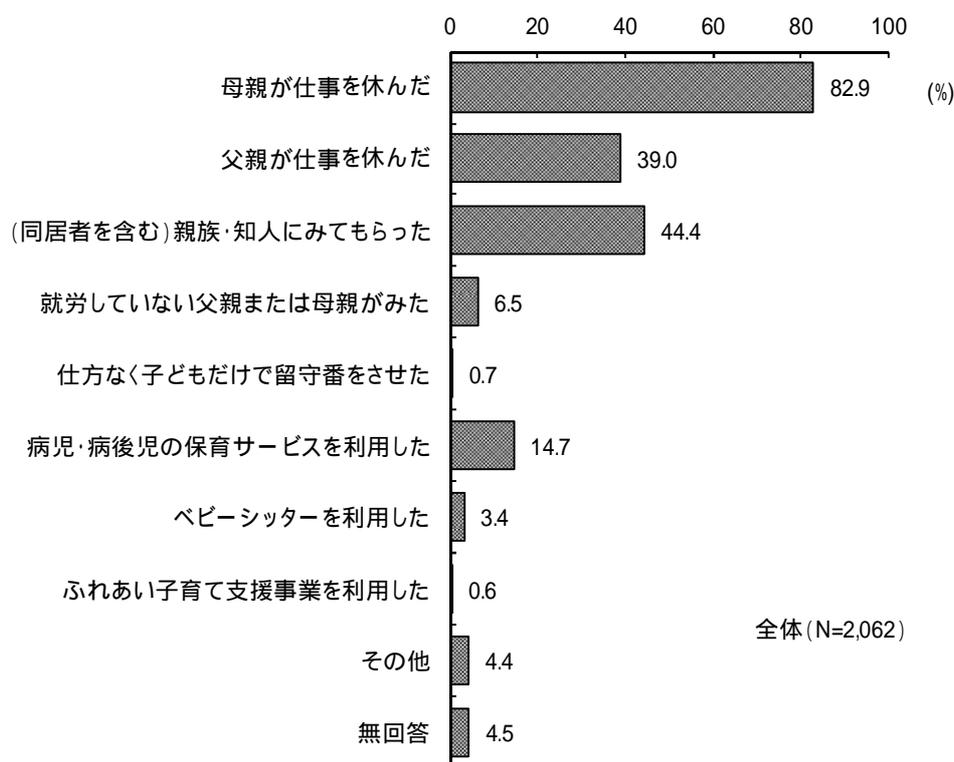


2 一時的な預かりについて

(1) 保育施設が利用できなかったときの対処方法(問15)

保育施設が利用できなかったときの対処方法は、「母親が仕事を休んだ(82.9%)」、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった(44.4%)」、「父親が仕事を休んだ(39.0%)」などが多くなっている(図表2-1)。

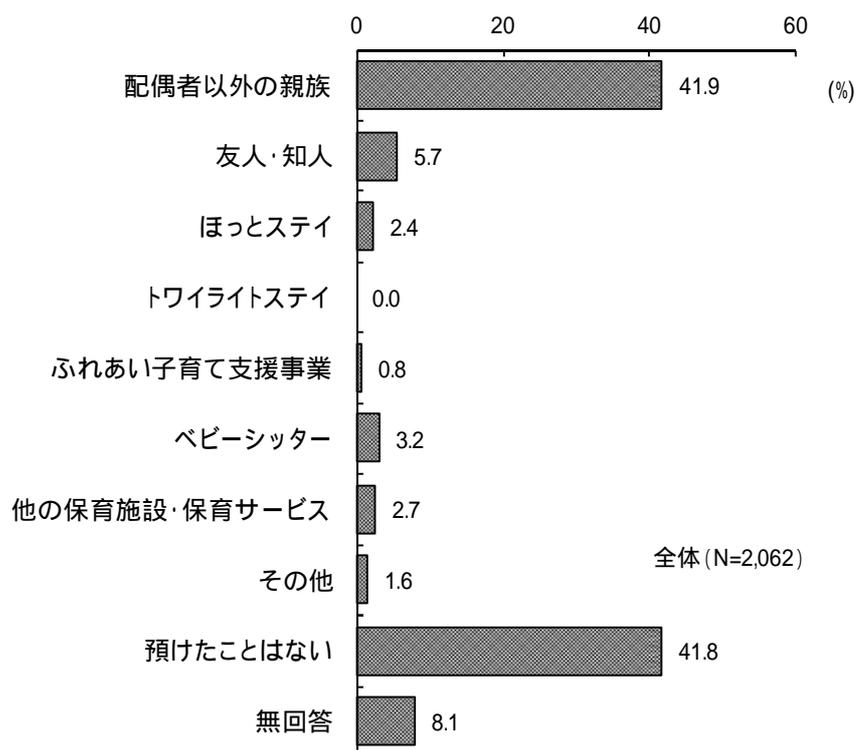
図表2-1 保育施設が利用できなかったときの対処方法(全体:複数回答)



(2) 保育施設以外に一時的に預けたことはありましたか(問16)

この1年間に、保育施設以外に一時的に預けた先で最も多かったのは、「配偶者以外の親族(41.9%)」で、これに、「友人・知人(5.7%)」が続いている。「預けたことはない」という回答は41.8%であった(図表2-2)。

図表2-2 保育施設以外に一時的に預けた先(全体:複数回答)

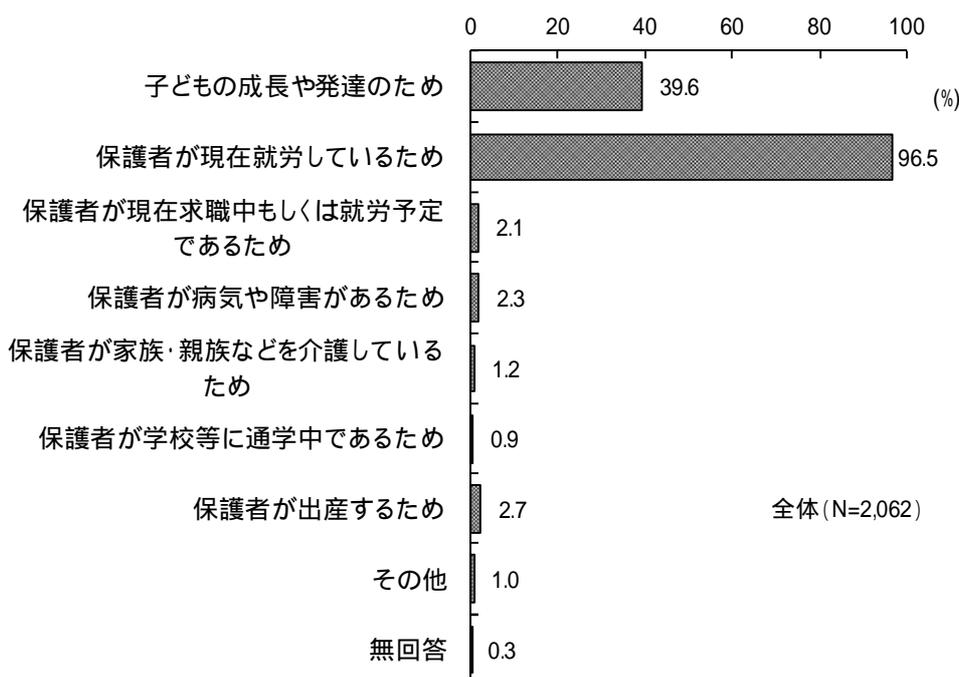


3 保護者の状況や保育に関する考え方

(1) 保育施設を利用する主な理由 (問 17)

保育施設を利用する主な理由は、「保護者が現在就労しているため (96.5%)」が最も多く、これに「子どもの成長や発達のため (39.6%)」が続いている (図表 3 - 1)。

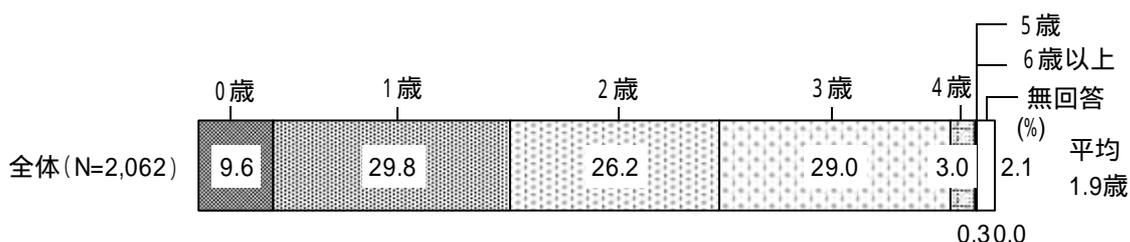
図表 3 - 1 保育施設を利用する主な理由 (全体：複数回答)



(2) 望ましいと考える集団での教育・保育開始年齢 (問 18 (1))

望ましいと考える集団での教育・保育開始年齢は、「1歳 (29.8%)」、「3歳 (29.0%)」、「2歳 (26.2%)」がほぼ均衡している。「0歳」とする回答も 9.6%あった (図表 3 - 2 - 1)。

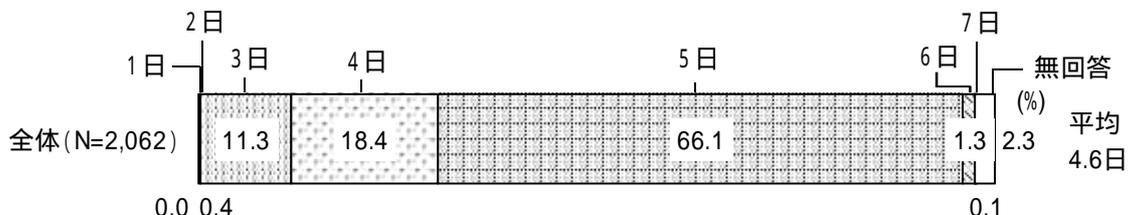
図表 3 - 2 - 1 望ましいと考える集団での教育・保育開始年齢 (全体)



望ましいと考える集団での教育・保育日数（問 18（2））

望ましいと考える集団での教育・保育日数は、「5日（66.1%）」が最も多かった。平均は4.6日である（図表3-2-2）。

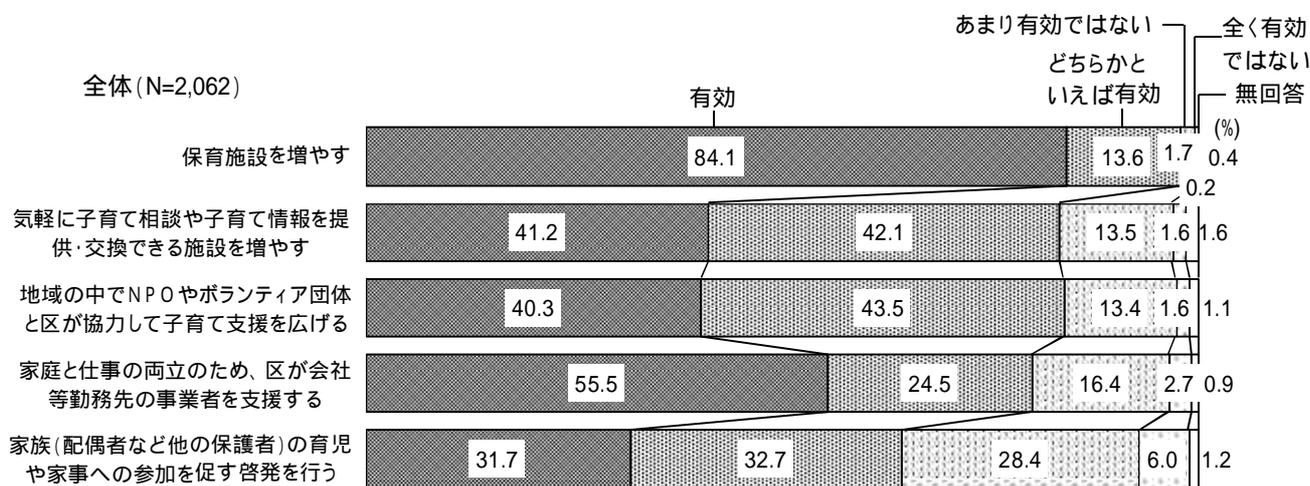
図表3-2-2 望ましいと考える集団での教育・保育日数（全体）



（3）保育について有効なこと（問 19）

保育について有効なことについてたずねたところ、「有効」という回答が多かったのは「保育施設を増やす（84.1%）」、「家庭と仕事の両立のため、区が会社等勤務先の事業者を支援する（55.5%）」などであり「家族（配偶者など他の保護者）の育児や家事への参加を促す啓発を行う」についてはやや否定的な回答の割合が高かった（図表3-3）。

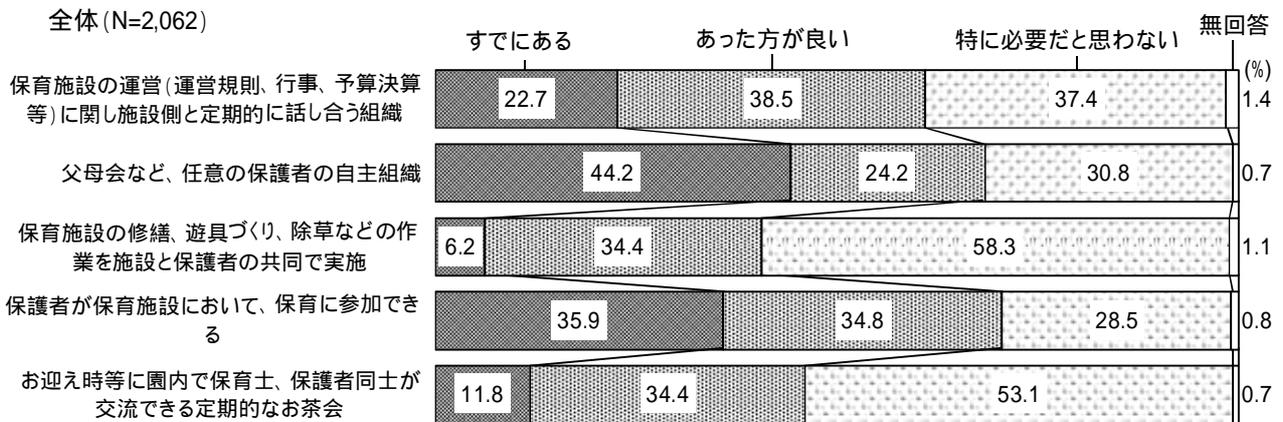
図表3-3 保育について有効なこと（全体）



(4) あった方が良い考え方・体制 (問20)

保育への親の参画が保育の質を高めるという観点から、保育施設と保護者との関わりや保護者もともに保育を担うという考え方・体制についての考えを聞いたところ、あった方が良い考え方・体制は、「保育施設の運営(運営規則、行事、予算決算等)に関し施設側と定期的に話し合う組織(38.5%)」、「保護者が保育施設において、保育に参加できる(34.8%)」などが多く、特に必要だと思わないという考え方は「保育施設の修繕、遊具づくり、除草などの作業を施設と保護者の共同で実施」が58.3%、「お迎え時等に園内で保育士、保護者同士が交流できる定期的なお茶会」が53.1%が多かった(図表3-4)。

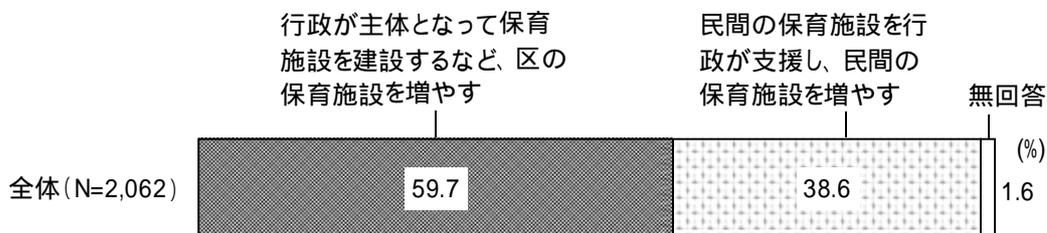
図表3-4 考え方・体制について(全体)



(5) 保育施設を増やす場合の設置主体 (問21)

保育施設を増やす場合の設置主体についての考え方は「行政が主体となって保育施設を建設するなど、区の保育施設を増やす(59.7%)」が「民間の保育施設を行政が支援し、民間の保育施設を増やす(38.6%)」を上回った(図表3-5)。

図表3-5 保育施設を増やす場合の設置主体(全体)

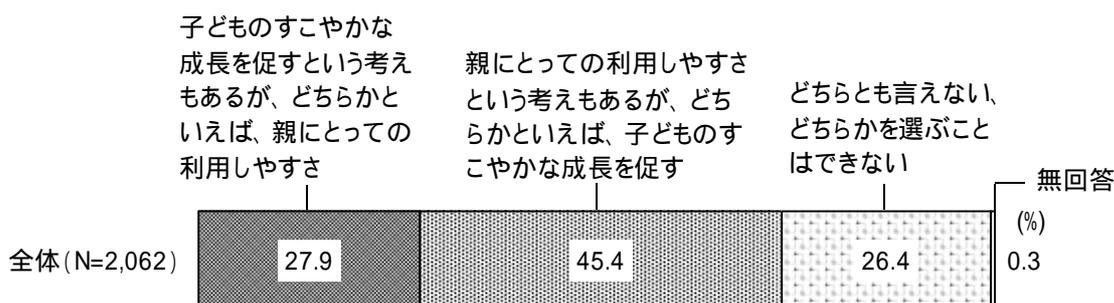


(6) 保育に対する考え方(問22)

A群

『保育施設の利用にあたっては、「就労支援や利便性等、仕事との両立のため、親にとって利用しやすい施設を選ぶ」と「子どもが心身ともに健やかに育つこと等、子どもの健やかな成長を促す施設を選ぶ」という2つの考え方があるとするれば、あなたはどちらをより優先しますか』という問に関しては、後者(45.4%)が前者(27.9%)を上回った(図表3-6-1)。

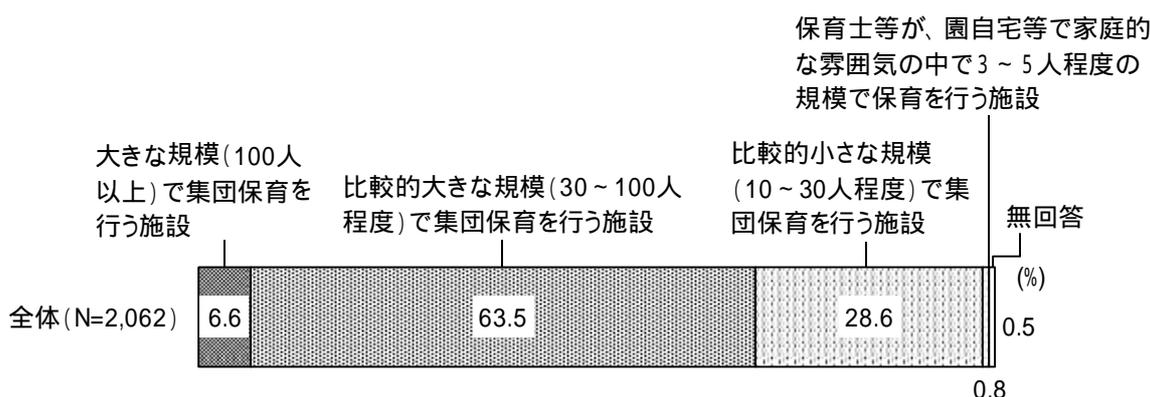
図表3-6-1 保育に対する考え方A群(全体)



B群

『保育施設全体の定員として、どのくらいの規模の施設に現在のあて名のお子さんを預けたいと思いますか(保育士と子どもの割合は各施設とも同じと考えてください)』という問に関しては、「比較的大きな規模(30~100人程度)で集団保育を行なう施設(63.5%)」、「比較的小さな規模(10~30人程度)で集団保育を行なう施設(28.6%)」、「大きな規模(100人以上)で集団保育を行なう施設(6.6%)」の順となった(図表3-6-2)。

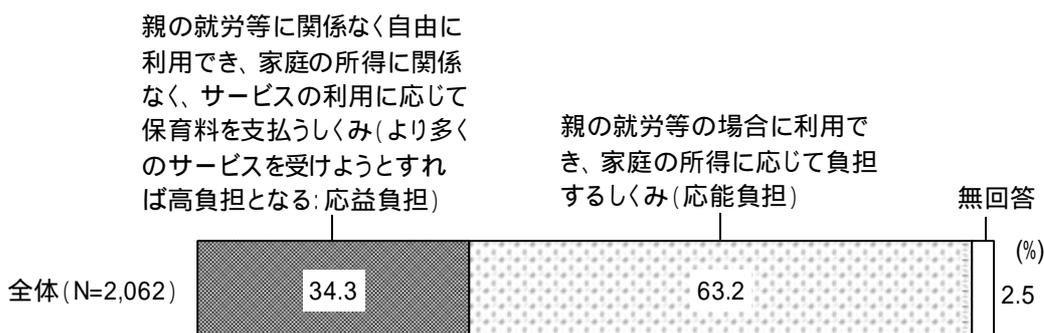
図表3-6-2 保育に対する考え方B群(全体)



C群

『保育施設の利用の条件と保育料を支払うしくみについてどのようにお考えですか』という問いについては、「親の就労等の場合に利用でき、家庭の所得に応じて負担するしくみ（応能負担）（63.2%）」が「親の就労等に関係なく自由に利用でき、家庭の所得に関係なく、サービスの利用に応じて保育料を支払うしくみ（より多くのサービスを受けようとすれば高負担となる：応益負担）（34.3%）」を上回った（図表3 - 6 - 3）。

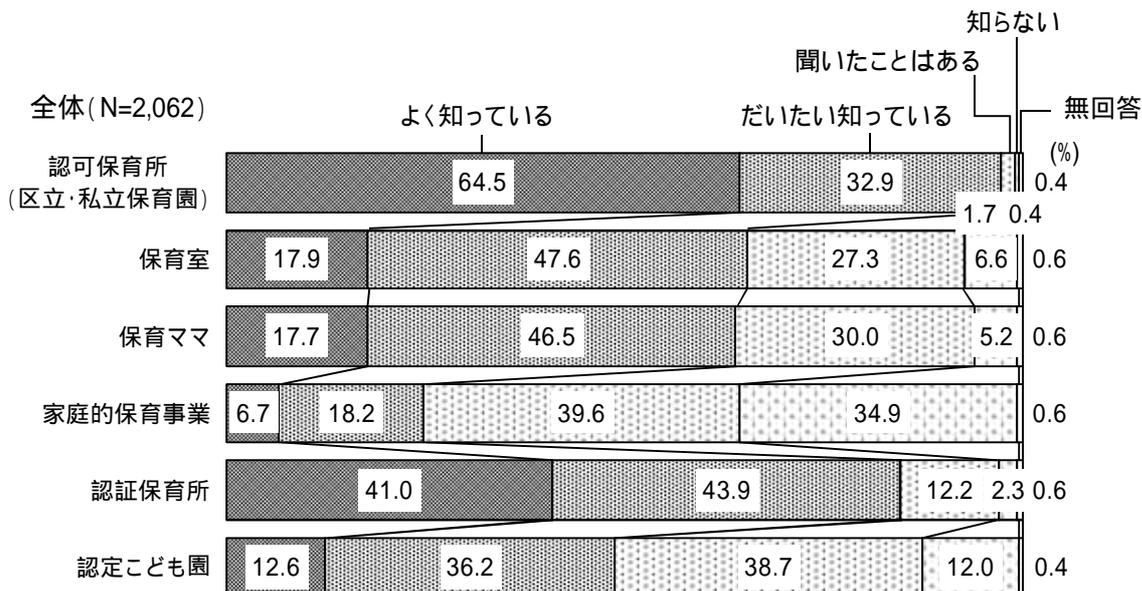
図表3 - 6 - 3 保育に対する考え方C群（全体）



(7) 利用の仕方や内容の違いの認知状況 (問23)

区内にある様々な保育施設について、その利用の仕方や内容の違いをどの程度ご存知ですか、という問いに関しては、下記の通りの回答状況であり、認知率（「よく知っている」と「だいたい知っている」を合計した割合）が高いのは『認可保育所（区立・私立保育園）（97.4%）』、『認証保育所（84.9%）』、『保育室（65.5%）』、『保育ママ（64.2%）』などとなっている（図表3 - 7）。

図表3 - 7 利用の仕方や内容の違いの認知状況（全体）



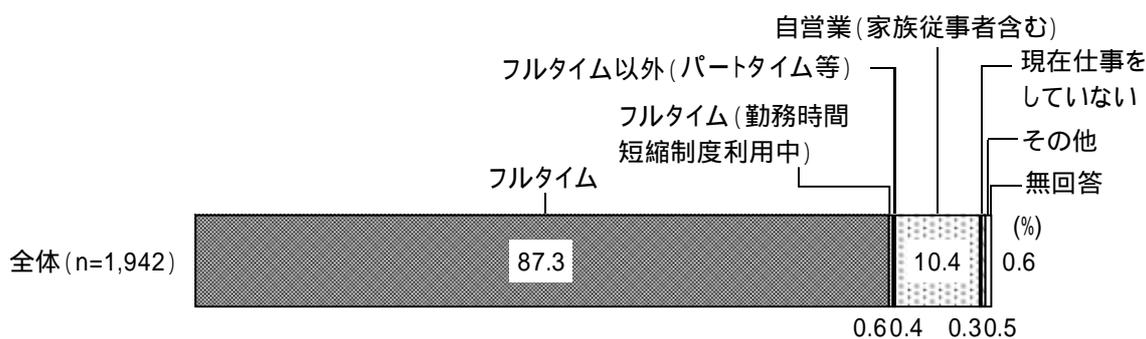
4 保護者の就労状況について

(1) 就労形態 (問 24)

就労形態 / 父親

就労形態 / 父親は、「フルタイム (87.3%)」が最も多く、これに「自営業 (家族従事者含む) (10.4%)」が続いている (図表 4 - 1 - 1)。

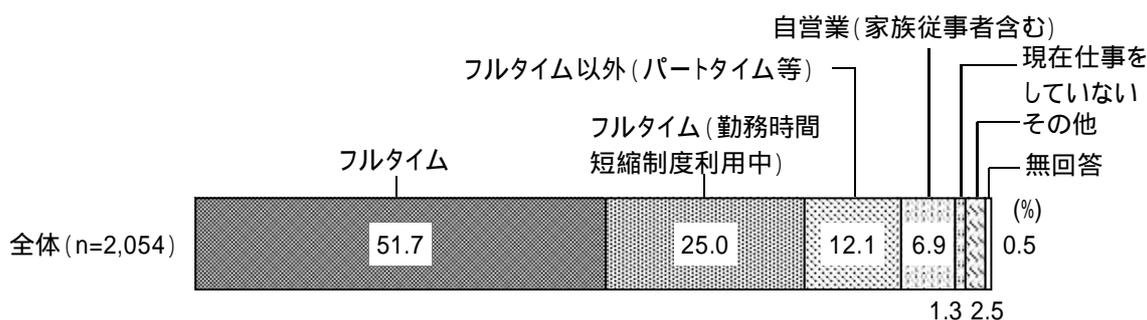
図表 4 - 1 - 1 就労形態 / 父親 (全体)



就労形態 / 母親

就労形態 / 母親は、「フルタイム (51.7%)」、「フルタイム (勤務時間短縮制度利用中) (25.0%)」、「フルタイム以外 (パートタイム等) (12.1%)」の順であった (図表 4 - 1 - 2)。

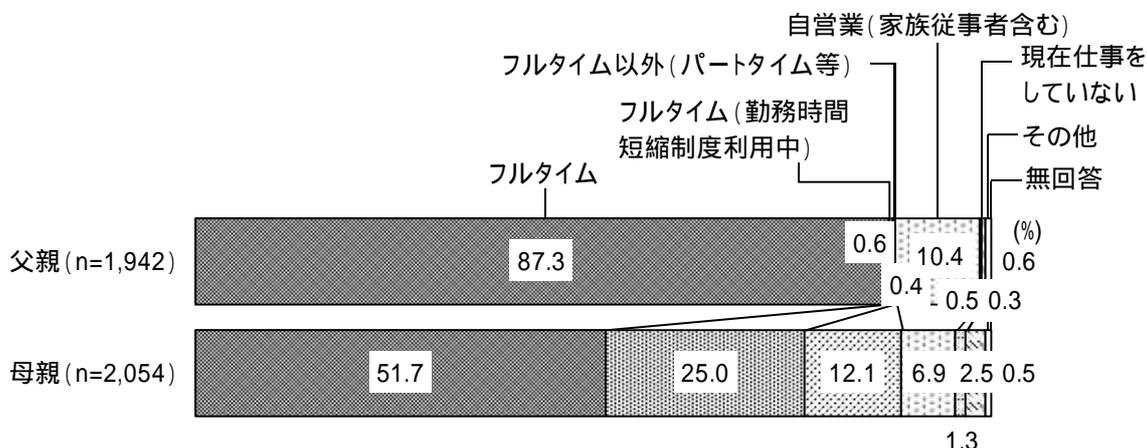
図表 4 - 1 - 2 就労形態 / 母親 (全体)



就労形態 / 父親・母親

父親・母親の就労形態を比較すると、父親は母親に比べて「フルタイム」の比率が高い(図表4-1-3)。

図表4-1-3 就労形態(全体)



(2) 一週間の就労日数、就労状況(問25)

週のうち働く日数(問25)

週のうち働く日数の平均は、父親が5.3日、母親が5.0日であった(図表4-2-1)。

図表4-2-1 週のうち働く日数(全体)

		(%)								平均
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	
父	親 (n=1,925)	0.0	0.0	0.1	0.2	69.6	26.4	3.2	0.6	5.3日
母	親 (n=2,016)	0.0	0.2	0.9	3.7	83.3	9.5	0.5	1.8	5.0日

残業の時間と回数(問25)

一日平均の残業時間は、父親が2.8時間、母親が0.8時間であった。また、週平均の残業回数は、父親が4.2回、母親が1.6回であった(図表4-2-2、4-2-3)。

図表4-2-2 残業の時間(全体)

		(%)													平均
		0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間以上	無回答		
父	親 (n=1,925)	4.9	14.3	22.9	20.4	12.8	8.5	2.4	0.6	1.0	0.2	1.1	10.9	2.8時間	
母	親 (n=2,016)	42.0	28.9	8.6	2.8	0.9	0.6	0.2	0.5	0.8	0.2	0.2	14.2	0.8時間	

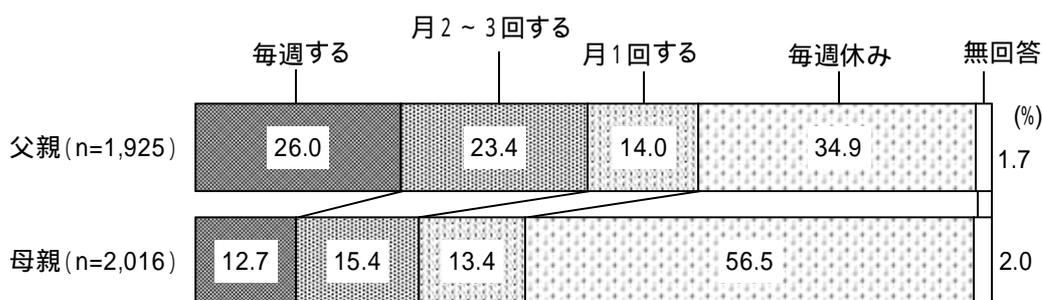
図表 4 - 2 - 3 残業の時間回数（全体）

		(%)									平均
		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	無回答	
父	親 (n=1,925)	4.8	2.1	4.9	11.6	11.9	45.8	6.9	1.2	10.7	4.2 回
母	親 (n=2,016)	40.8	8.8	7.9	9.8	5.3	11.8	0.6	0.1	14.7	1.6 回

土曜日の仕事 / 父親・母親（問 25）

土曜日の仕事を月に2～3回以上する割合は、父親が49.4%、母親が28.1%であった（図表4-2-4）。

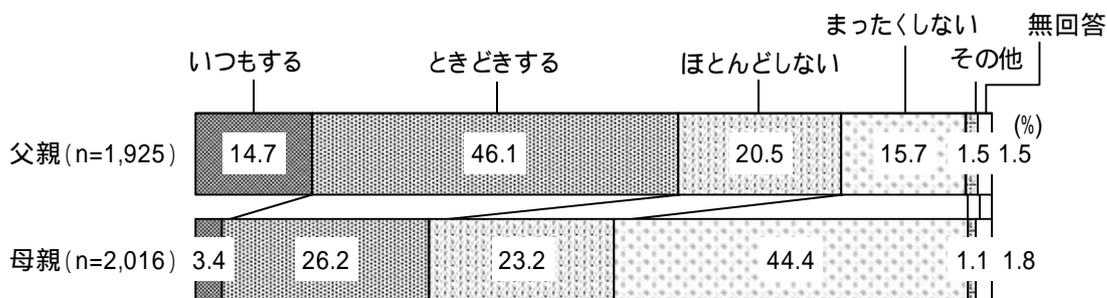
図表 4 - 2 - 4 土曜日の仕事（全体）



日曜日・祝日の仕事 / 父親・母親（問 25）

日曜日の仕事をある程度する割合は、父親が60.8%、母親が29.6%であった（図表4-2-5）。

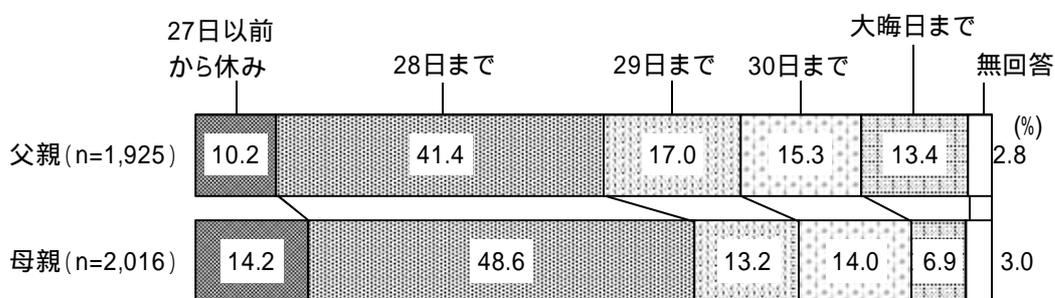
図表 4 - 2 - 5 日曜日・祝日の仕事（全体）



年末の仕事 / 父親・母親（問 25）

年末の仕事は、「28日まで」に終了する割合が、父親で51.6%、母親で62.8%であった。大晦日まで働いている父親が13.4%、母親が6.9%いる（図表4-2-6）。

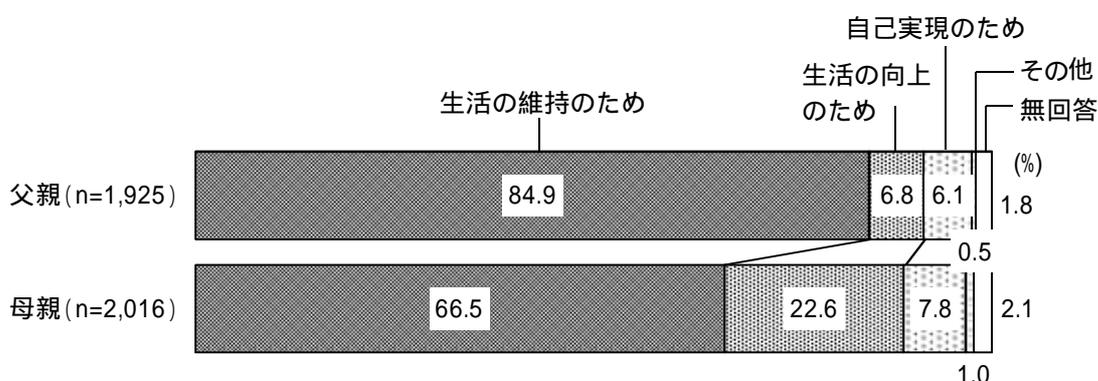
図表4-2-6 年末の仕事（全体）



就労の動機 / 父親・母親（問 25）

就労の動機は、「生活の維持のため」が父親（84.9%）、母親（66.5%）とも最も多い。母親では「生活の向上のため」という動機が22.6%あった（図表4-2-7）。

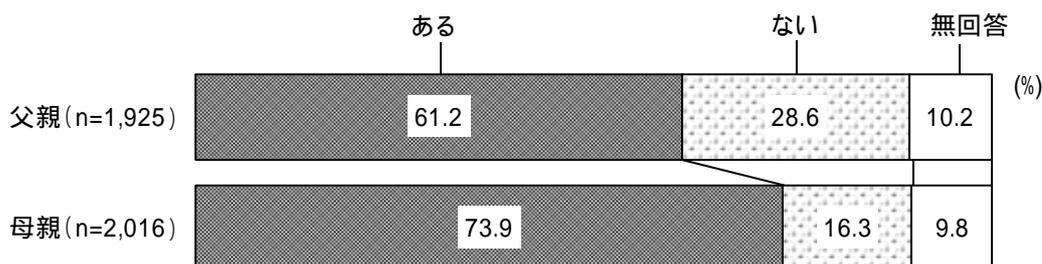
図表4-2-7 就労の動機（全体）



育児休業制度の有無 / 父親・母親（問 25）

会社等に勤務の人に、育児休業制度の有無をたずねたところ、「ある」が父親で61.2%、母親で73.9%であった（図表4-2-8）。

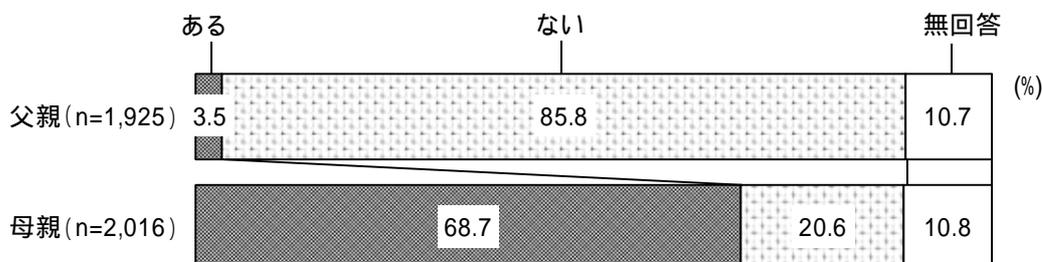
図表4-2-8 育児休業制度の有無（全体）＜会社等に勤務の人＞



育児休業の取得の有無 / 父親・母親（問 25）

育児休業を取得したことがある人は、父親で 3.5%、母親で 68.7%であった（図表 4 - 2 - 9）。

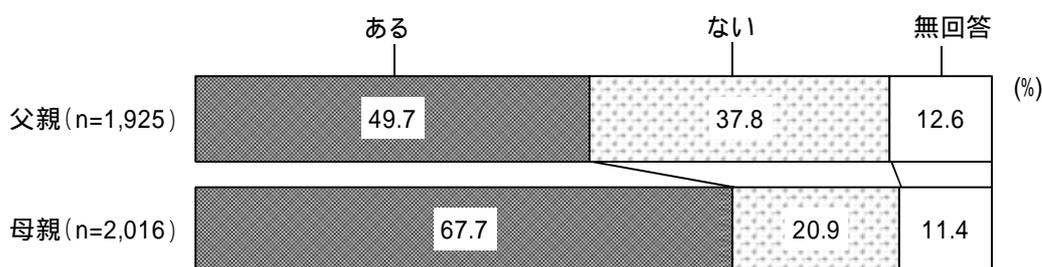
図表 4 - 2 - 9 育児休業の取得の有無（全体）＜会社等に勤務の人＞



勤務時間短縮制度の有無 / 父親・母親（問 25）

勤務時間短縮制度の有無は、父親で 49.7%、母親で 67.7%である（図表 4 - 2 - 10）。

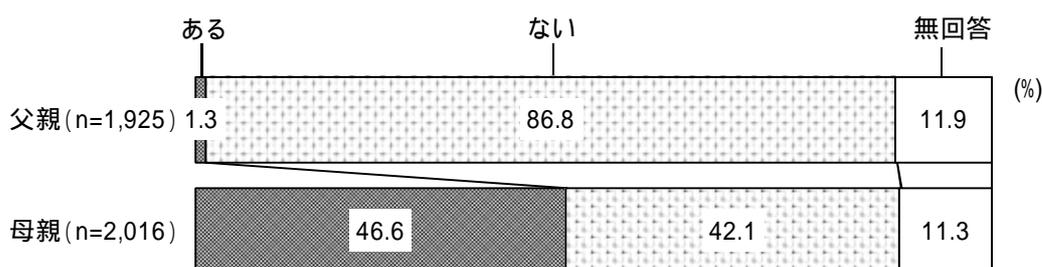
図表 4 - 2 - 10 勤務時間短縮制度の有無（全体）＜会社等に勤務の人＞



勤務時間短縮制度の取得の有無 / 父親・母親（問 25）

勤務時間短縮制度を取得したことがある人は父親で 1.3%、母親で 46.6%である（図表 4 - 2 - 11）。

図表 4 - 2 - 11 勤務時間短縮制度の取得の有無（全体）＜会社等に勤務の人＞

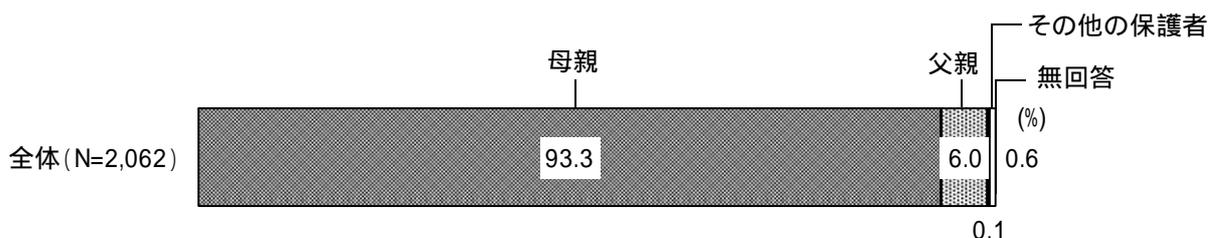


5 家族の状況等

(1) 記入者(問26)

調査票の記入者は、母親が93.3%と大半を占めている(図表5-1)。

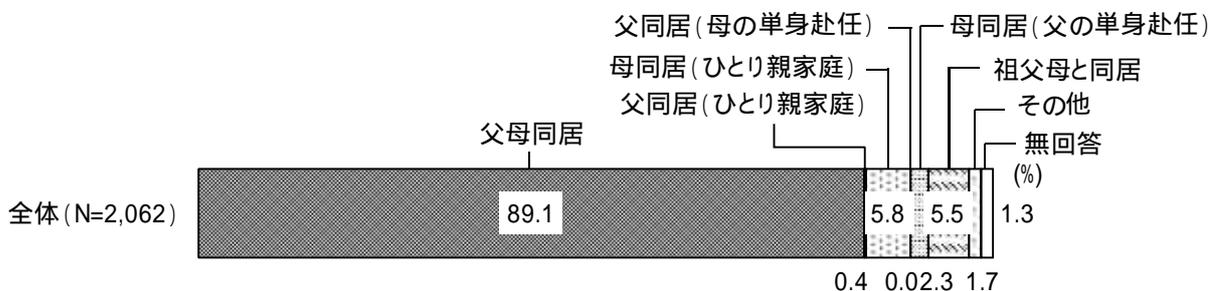
図表5-1 記入者(全体)



(2) 同居状況(問27)

同居状況は、「父母同居」が89.1%と大半を占めているが、「母同居(ひとり親家庭)」が5.8%、「祖父母と同居」が5.5%あった(図表5-2)。

図表5-2 同居状況(全体)

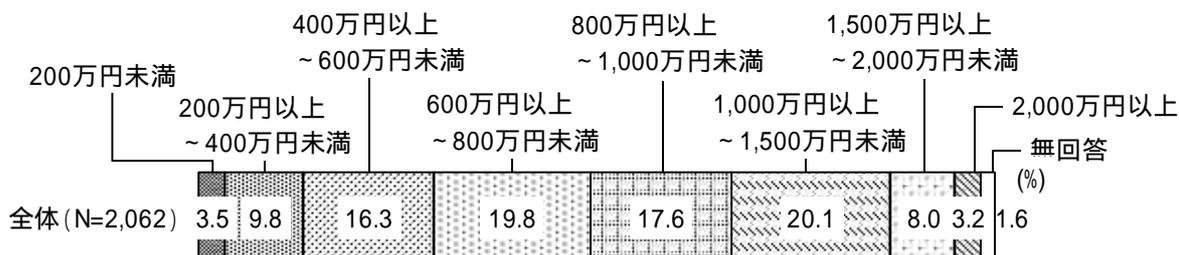


(3) 世帯の総収入(問28)

世帯の総収入は、「1,000万円以上~1,500万円未満(20.1%)」、「600万円以上~800万円未満(19.8%)」,

「800万円以上~1,000万円未満(17.6%)」などが多くなっている(図表5-3)。

図表5-3 世帯の総収入(全体)



(4) 居住地(問29)

居住地は下図のとおりであり、「世田谷地域(27.4%)」、「玉川地域(23.8%)」などが多い。(図表5-4)。

図表5-4 居住地(全体)

